

課題対応取組み報告書

【共通】

		名称	住吉区北地域包括支援センター		
		提出日	2024	年	6月5日
カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒	地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）		
	☐	認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等		
	☐	その他（			
活動テーマ	ねこ会議 ～ペットを飼っている高齢者への援助におけるネットワーク構築や 新たな社会資源創出に向けた意見交換～				
地域ケア会議から 見えてきた課題	・医療や介護を必要とする高齢者が「ペットを放っておけない」と言い、必要な入院治療を拒否する。また介護施設等に入所する際に、自宅にペットが取り残されることになってしまい、ケアマネジャーがその世話を任されるなどしてケアマネジャーが困ってしまう。 ・高齢者が年金や生活保護費があっても、ペットのために使用してしまい、生活が困窮してしまう。 ・高齢者が自宅に野良猫を引き込んで、劣悪な環境で生活をしている。 ・引き取ってきた猫が子猫を生んで、多頭飼育となり、十分な世話ができなくなってしまう。 などの事象が当センターが対応した事例の中にあり、日頃からペットとの適切な付き合い方、飼い方について、飼い主（特に高齢者）やその家族に啓発が必要であり、時には支援が必要である。また、ケアマネジャーやヘルパー等が担当している高齢者が、こうした状況に置かれている際に、チームで適切に支援ができるようになる必要がある。				
対象	ペット飼育をしている高齢者(障がい者)の支援者、介護支援専門員 等				
地域特性	・住吉地域は、地域連合が27町会で構成された大所帯であることが特徴的である。住民は新旧混合で市営住宅も多いが、帝塚山や万代池周辺の高級住宅街も圏域に含み、所得層も幅広い。大阪急性期総合医療センターおよび関連施設、福祉事業所も多い。 ・東粉浜地域には戦火を逃れた古い家や長屋が立ち並び、世代間で住み続けている住民も多く、市内屈指の地域力の高さも特徴的。南海電鉄、阪堺線など天王寺や難波へのアクセスも便利。商店街も賑やかさを保ち、活気がある。通所、入所型の福祉施設は殆どない。 ・長居地域の一部のみが圏域に入るが、文化住宅や単身向けアパート、市営住宅が大半で「独居、生活保護、何らかの生活課題」というキーワードが多く見られる。				
活動目標	①福祉行政と動物愛護行政と連携し、高齢者や社会的弱者が自己実現の一つとしてのペット飼育を援助できる仕組みを考える。 ②ペットを飼っている高齢者への援助における社会資源とのネットワーク構築や新たな社会資源の創出。 ①②を大きなテーマとして、参加団体間の連携を深め、それぞれの領域での価値観などをすり合わせることで、より強固なネットワークの構築を目指す。				
活動内容 (具体的な取組み)	①定例会 5月10日、7月12日、11月8日、1月12日、3月13日 計5回 ②施設見学 9月13日 ③会議運営にあたって付随した取り組み ①計5回の会議を開催している。延べ参加者43名。2022年度に開催したねこねこ展にて募集した寄付品について、ペットフードドライブとして情報発信等の運営についての確認、施設見学に向けての調整、事例検討などを中心に取り組む。 ②住之江区にある特別養護老人ホーム加賀屋の森を当会議コアメンバー中心に計13名で施設見学。施設では動物をコンパニオンアニマルと称して共生しているとのこと、施設での取り組みを見学する。 ③圏域外からペット関連の相談対応2件、ペットフードドライブの残数についての情報発信(チラシ、LINE@) 等				
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・ペットフードドライブとして、支援者を通じてペットを飼育する高齢者等への支援に取り組み、年間で数件の相談・提供実績となっている。 ・会議の中では、多頭飼育崩壊に至っている事例や飼い主が要介護状態になる、死亡する、長期入院となるなどから、ペットが残される事例が複数報告・共有している。支援が長期化し会議の中で何度も報告共有する事例もあった。 ・施設見学を実施できたこと。民間の高齢者施設なども含めて、ペットと一緒に入所できる施設も徐々に増えてきており、どのような取り組みが行われているのか学びを深める機会となった。 ・北包括圏域以外のケアマネさんからペット関連での相談を年間数件いただいている。実務的な関りは担当圏域の包括などの適切な機関を紹介しており、会議運営にあたって得ている情報や知見の情報提供、他のコアメンバーへの投げかけなどで、無理のない範囲で対応している。				
今後の課題	・“ねこ”というキーワードが印象的で、介護や福祉の課題と認識してもらうことが難しく、当会議への参加についても所属組織の中で十分に理解が得にくいコアメンバーがいたり、協力が得られにくいことがある。 ・研修会やイベント、ペット可の施設情報や里親探しなどを、ケアマネさんを中心とした福祉関係者への情報発信とそのための情報の整理。 ・取り組みの派生から他圏域からの個別事例の相談に一定対応して、会議の場で課題整理をと考えているが、担当圏域外ということもあり動きにくさを感じており、公的な相談窓口を設定することが今後ますますの課題整理に向けても必要ではないかと考えている。				
※以下は、区運営協議会事務局にて記入					
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 6年 7月 18日 (木)				
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性				
評価できる項目 (特性) についてのコメント	・ねこという切り口で福祉制度や社会資源創出まで切り込んだ手法は評価に相対する。ただこれからは飼育後のトラブルのみならず、飼育を始める段階（ペットショップや里親、譲渡の段階）で飼育に伴う出費や病気リスク、じぶんより長い息した場合の引き取り手は老猫介護の実際等を情報提供し、場合によっては飼育を思いとどらせる必要もあるのではないかと。 ・数少ないペット飼育の情報は今後さらに必要になると思われる。				
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。					